



●沖縄バヤリース

1950年「バヤリースオレンジ・オキナワ」を設立。米国ゼネラルフーズとの契約によりバヤリース清涼飲料を発売開始。1972年沖縄の本土復帰に伴い「株式会社沖縄バヤリース」を設立し、新社屋を現在地に移す。現在、オレンジだけでなく、沖縄の素材を使った飲料が注目を集めています。

住所●南城市大里字古堅1208
Tel●098-945-3381 Fax●098-945-0005
www.okinawa-bireleys.co.jp



 ジュースにはどんな
お水を使っているの？

場の大きさや機械のおかげなんだ。
シンプルでそんなに大きいものじゃないから、ちょっと機械を取り替えたりすることで、いろんなものに対応することができるからなんだよ。

戦後、浦添市でスタートした「バヤリースオレンジオキナワ」。アメリカンな雰囲気の写真は当時を偲ばせる貴重なもの。日本復帰の際にアメリカと香港の共同資本から当時の従業員で経営権を買い取り「株式会社沖縄バヤリース」へ。



あらためて、お水の
わかりました。仲里
どうもありがとうございました。

お茶の場合は、お茶の色をきれいにだすために純水装置という機械を使って、硬度を0にしてから使うんだよ。水の状態も飲み物の種類によつて変えているってことなんだ。でも、南部の水は硬度がそれほど高くないから、淨水にする時間がそれほど長くかかるないので助かっているよ。それから飲み物の中身だけではなくて、瓶やペットボトルを洗つたり、飲み物を冷やしたり、飲み物づくりに水は欠かせない大切なものなんだよ。



みなさんのもとへ

A female worker in a white lab coat and hairnet stands behind a counter in a factory, surrounded by various bottles of juice.



温度が40度になったかを抜き取り換玉をして確かめ、色などもチェックしてから箱に詰めていきます。

4 検品・箱詰め

10



容器に詰められたばかりのバヤリースオレンジは殺菌のため温度が85度あり、それを冷却水のシャワーで一気に40度まで下げます。

おいしい水から
おいしいジュースができるまで

つめた～い飲み物がおいしい季節になりましたね。
今回は夏本番を前にみんなの大好きなジュースのことを
南城市大里にある沖縄バヤリースを訪ねて、いろいろ教えてもらいました。
さあ、みんなでバヤリースの工場をのぞいて、
おいしさの秘密を一緒に探ってみよう。



 バヤリースはいつ頃から
つくっているんですか？

バヤリースオレンジは、アメリカのフランク・バヤリーという人が1938年に瞬間殺菌法という、果汁をおいしく保存できる方法を発明したことであつられるようになったんだ。沖縄では戦後、アメリカと香港の会社が共同で、バヤリースオレンジオキナワ社をついたことからバヤリース飲料の製造販売が始まつたんだよ。その頃、沖縄で飲み物をつくっている会社としては戦後2番目の早さで、めずらしさやそのおいしさからバヤリースオレンジは飛ぶように売れ、あつという間に沖縄中で飲まれるようになつたんだ。それで、オレンジジュースといえばバヤリ

ースというほど、誰もが知つてい
る飲みものになつたんだよ。

オレンジを濃縮した原料を直接送つてもらつてこれまでと同じ味と品質を守り続いているんだ。



お話をしてくれた人

取扱会員 仲里 清さん

仲里さんはおいしいジュースをつくり続けているベテランの製造部長。パヤリースの歴史や、お水とジュースの関係をわかりやすく説明してくれました。

